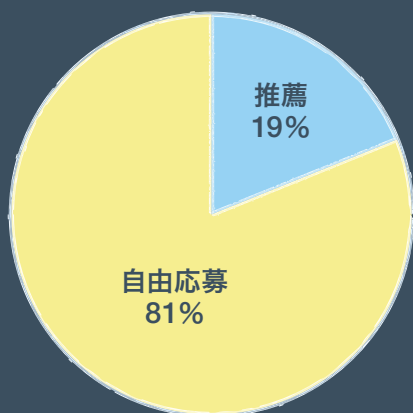


## 内定先企業への 応募方法

かつては推薦を利用して就職することが多かった理系学生ですが、近年では自由応募で就職活動を進めている方が多数派となっています。金融やコンサルといった専攻分野以外の業界だけでなく、メーカーなどでも自由応募を中心に活動している理系学生も珍しくありません。



# データで見る 理系の就職活動

理系の先輩たちはどんな業界・会社をどのような軸で選んだのか…このページでは、2016年卒業予定で就職活動に臨んだ理系の先輩たちの各種データを集計しました。理系の先輩たちがどんな就職活動をしたのか、データから読み解いてみましょう。

調査対象 理系ナビ2016会員

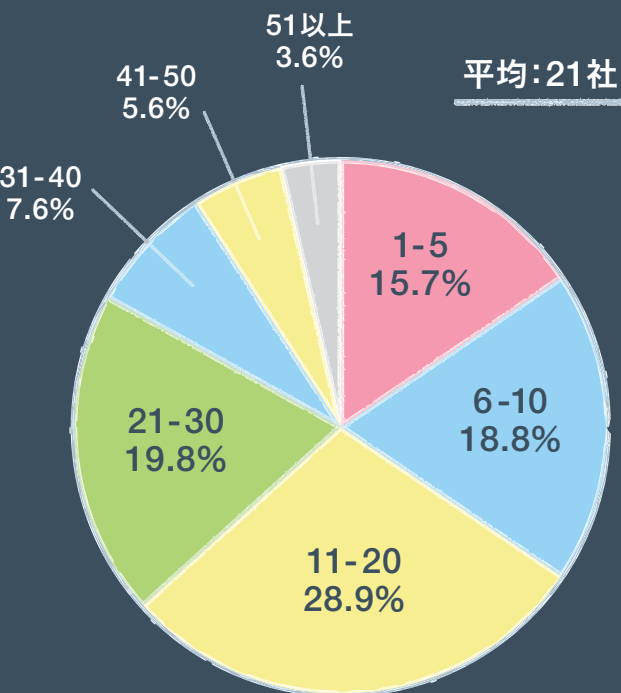
調査期間 2015年8月

調査方法 インターネット調査（回答フォームへの記入）

回答数 200名

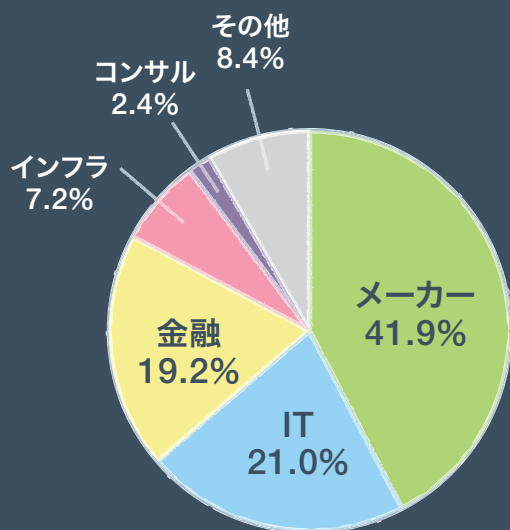
## エントリーシート提出数

理系は厳選してエントリーしている学生が多く、多数派は「11～20社」です。理系は推薦応募を中心に応募企業を厳選して活動している方も少なくありませんが、自由応募をメインに活動している方やいわゆる文系職種を志望している方のエントリー数は比較的多めとなっています。



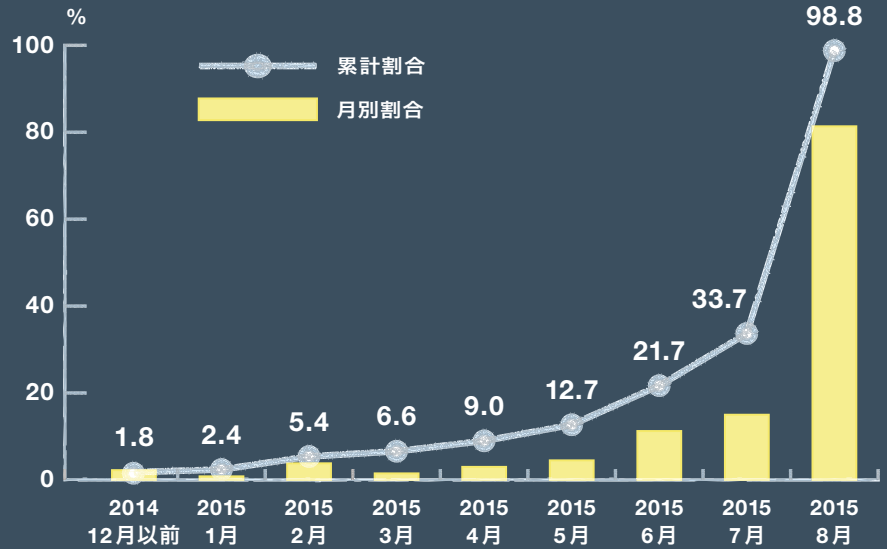
## 〈業界別〉内定承諾企業

内定を承諾した企業の業界については約41.9%をメーカーが占め、IT、金融がそれに続きます。さらに内訳の業態を見るとメーカーでは総合電機、自動車、素材などの技術系職種、IT業界ではSIerのSE。金融系では数理能力を活かせるアクチュアリーなど金融専門職への内定が多く見られます。その他はマスコミや商社、研究機関などがありました。



## 内定承諾時期

倫理憲章参加企業の選考が開始となる8月に入ってから、主要企業の多くが内定出しをしたとみられ、内定受諾率も一気に上昇しました。その一方で、主要企業の内定出しが始まる前に33.7%がすでに内定受諾しています。



## 内定承諾の決め手

内定承諾の最終的な決め手で1位となったのは「仕事内容」。「この仕事をしたい!」という想いが決め手となった方が多いようです。仕事内容を選んだ方のコメントを見ると、「職種」だけでなく、「グローバルに活躍できる」など自身が望むワークスタイルを叶えられる企業であることが決め手となっているようです。

### 1位 仕事内容

「国内だけでなく、世界で活躍できる場所」  
「世界トップレベルの研究に取り組める」  
「事業領域が幅広く、様々な仕事に挑戦できると考えたから」

### 2位 社風

「会社の持っている価値観との一致を最も重視しました」

### 3位 社員の魅力

「一緒に働きたいと思う社員が多かった」  
「社員の方が最も誠実だったから」

### 4位 成長性

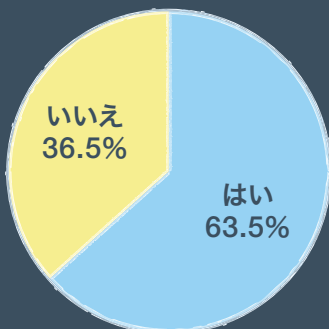
「研究開発への投資を継続的にしている点。また、海外展開にも積極的に企業の成長性に期待が持てた」

### 5位 規模・影響力

「業界大手で社会的な影響力が大きいから」  
「会社の規模と安定性、財務基盤などから総合的に判断」

## 専攻・研究分野を活かせる仕事を希望したか

大学での専門性を活かせる仕事に就きたいと考えていた理系学生は63.5%。Noと答えた方は「専攻にとらわれず幅広い仕事を見てみたかった」「自分の専攻を仕事にするのは難しいと思ったから」といった意見がみられました。



## インターンシップ参加率

例年インターンシップは夏季に実施されていますが、2016年卒向けのプログラムは就職活動スケジュールの変更によって、秋から冬にかけても多数実施されました。これに伴い、学生がインターンシップに参加する機会が増加。インターンシップ参加者が62%だった2015年卒から、2016年卒は78%に増加しました。

